

重要情報シート（個別商品編）

作成月：2024年12月

1. 商品等の内容（当社は、組成会社等の委託を受け、お客様に商品の販売の勧誘を行っています）

金融商品の名称・種類	NEXT NOTES NYダウ・ダブル・ブル・ドルヘッジ ETN（2040）
組成会社（運用会社）	ノムラ・ヨーロッパ・ファイナンス・エヌ・ブイ
金融商品の目的・機能	ダウ・ジョーンズ工業株価平均 レバレッジ(2倍)・インデックス(円ヘッジ・プライスリターン)を対象指標（以下「対象指標」といいます。）とし、対象指標に連動する投資成果（基準価額の変動率が対象指標の変動率に一致することをいいます。）を目指します。
対象指標の概要	日々の騰落率をダウ・ジョーンズ工業株価平均（プライス・リターン、円ヘッジ）指数の騰落率の2倍として計算された指数で、2007年12月31日の指値を1,000ポイントとして計算されています。 当日の指値 = 前日の指値 × (1 + 2倍 × ダウ・ジョーンズ工業株価平均（プライス・リターン、円ヘッジ）の前日比変動率 - 金利相当分)
商品組成に携わる事業者が想定する購入層	短期間の取引による売買差益の獲得を目的とし、大きく元本割れするリスクを許容することができ、さらに、以下についてご理解いただける方に適しています。 (1) レバレッジ（インバース）倍率に比した高リスク商品であり、投資経験が少ない投資家向けの商品ではありません。 (2) 以下の理由から中長期の投資に適しません。 ① 2営業日以上保有する場合、1証券あたりの償還価額の変動率が、対象指標の参照する原指数・原指標の変動率の2倍とは、通常は一致しません。また、原指数・原指標の値動きが上昇・下落を繰り返した場合、マイナスの方向に乖離が生じる可能性が高くなります。 ② 対象指標は円建てであり、為替レートの変動の影響を低減させるための為替ヘッジを組み込んだ指数です。ただし為替ヘッジには米ドルと円の間の金利差等によるヘッジコストが生じ、そのコストが対象指標の値に反映されます。
パッケージ化の有無	ありません。
クーリング・オフの有無	クーリング・オフ（契約日から一定期間、解除できる仕組み）の適用はありません。

（質問例）

- ① あなたの会社が提供する商品のうち、この商品が、私の知識、経験、財産状況、ライフプラン、投資目的に照らして、ふさわしいという根拠は何か。
 - ② この商品を購入した場合、どのようなフォローアップを受けることができるのか。
 - ③ この商品が複数の商品を組み合わせたものである場合、個々の商品購入と比べて、どのようなメリット・デメリットがあるのか。
- ※ 本シート最後の「お問い合わせ先」に、上記質問例への回答例を記載した「よくあるご質問」ページへのURLを掲載しています。

2. リスクと運用実績（本商品は、円建ての元本が保証されず、損失が生じるリスクがあります）

損失が生じるリスクの内容 ※右記に限定されるものではありません。	対象指標の変動による影響を受けます。 本商品の発行者及び保証会社の破綻や財務状況の悪化による影響を受けます。 為替相場の変動による影響を受けます。 本商品の対象指標は、その参照する原指数・原指標の2倍の変動率を日次（1日）で達成するよう計算されるため、日次ではなく2営業日以上の運用期間で見た場合には、本商品の1証券あたりの償還価額の変動率は、対象指標の参照する原指数・原指標の変動率の2倍とは通常は一致しません。また、原指数・原指標の値動きが上昇・下落を繰り返した場合、マイナスの方向に乖離が生じる可能性が高くなります。 本商品の市場価格は、取引所における競争売買を通じ、需給を反映して決まるため、必ずしも1証券あたりの償還価額と一致するものではありません。
〔参考〕過去1年間の收益率 (市場価格ベース)	37.08% (2024年11月末現在)
〔参考〕過去5年間の收益率 (市場価格ベース)	平均9.97% 最低-34.81% (2022年9月) 最高106.24% (2021年3月) (2019年12月～2024年11月の各月末における直近1年間の数字)

※ 損失リスクの内容の詳細は上場有価証券等書面に記載しています。

(質問例)

④ 上記のリスクについて、私が理解できるように説明してほしい。

⑤ 相対的にリスクが低い類似商品はあるのか。あればその商品について説明してほしい。

※ 本シート最後の「お問い合わせ先」に、上記質問例への回答例を記載した「よくあるご質問」ページへのURLを掲載しています。

3. 費用（本商品の購入又は保有には、費用が発生します）

購入時に支払う費用 (販売手数料など)	国内株式等の売買に係る委託手数料がかかります。
継続的に支払う費用 (信託報酬など)	年0.80% (2024年11月末現在)
運用成果に応じた費用 (成功報酬など)	ありません。 (2024年11月末現在)

※ 購入時に支払う費用は上場有価証券等書面に記載しています。

(質問例)

⑥ 私がこの商品に〇〇万円を投資したら、それぞれのコストが実際にいくらかかるのか説明してほしい。

⑦ 費用がより安い類似商品はあるか。あればその商品について説明してほしい。

※ 本シート最後の「お問い合わせ先」に、上記質問例への回答例を記載した「よくあるご質問」ページへのURLを掲載しています。

4. 換金・解約の条件（本商品を換金・解約する場合、一定の不利益を被ることがあります）

この商品の指標連動証券（外国指標連動証券）の償還期限は、2033年8月8日です。但し、これに限らず、繰上償還等により上場廃止される場合があります。

この商品を売却する場合には、国内株式等の売買に係る委託手数料がかかります。

※ 本商品を換金する場合、一般的には、金融商品取引業者等を通じて、取引所市場で売却することになります。

※ 売却時に支払う費用は、上場有価証券等書面に記載しています。

（質問例）

⑧ 私がこの商品を換金・解約するとき、具体的にどのような制限や不利益があるのかについて説明してほしい。

※ 本シート最後の「お問い合わせ先」に、上記質問例への回答例を記載した「よくあるご質問」ページへのURLを掲載しています。

5. 当社の利益とお客様の利益が反する可能性

当社は、この商品の組成会社等との間で資本関係等の特別の関係はありません。

当社の営業員に対する業績評価上、この商品の販売が他の商品の販売より高く評価されるような場合はありません。

※ 利益相反の内容とその対処方針については、当社ホームページ「お客様本位の業務運営に関する基本方針」の「2.利益相反の適切な管理」をご参照ください。

（URL）

<https://www.click-sec.com/corp/info/fiduciary/>

（質問例）

⑨ あなたの会社が得る手数料が高い商品など、私の利益よりあなたの会社やあなたの利益を優先した商品を私に薦めていないか。

私の利益よりあなたの会社やあなたの利益を優先する可能性がある場合、あなたの会社では、どのような対策をとっているのか。

※ 本シート最後の「お問い合わせ先」に、上記質問例への回答例を記載した「よくあるご質問」ページへのURLを掲載しています。

6. 租税の概要（NISA、つみたてNISA、iDeCoの対象か否かもご確認ください）

税金は表に記載の時期に適用されます。以下の表は、個人投資家の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
売却時及び償還時	所得税、復興特別所得税 及び地方税	譲渡所得として課税 売却時及び償還時の差益（譲渡益）に対して 20.315%

※本商品には、分配金が発生しません。

※詳細は【目論見書】の「租税の取扱い」に記載しています。

7. その他参考情報

販売会社（当社）が作成した「上場有価証券等書面」

（リンク先の「上場有価証券等書面」の最新版をご参照ください。）

（URL）

<https://www.click-sec.com/corp/guide/regulations/>

組成会社が作成した「目論見書」

（リンク先から当商品名をクリックし、遷移先から当商品の「目論見書」をご参照ください。）

（URL）

<https://nextnotes.com/lineup/index.html>

契約締結に当たっての注意事項等をまとめた「契約締結前交付書面」、金融商品の内容等を記した「目論見書」については、ご希望があれば、紙でお渡しします。

8. お問合せ先

GMOクリック証券株式会社 コールセンター

（URL）

<https://www.click-sec.com/corp/support/inquiry/#call>

GMOクリック証券 よくあるご質問

[重要情報シート（上場レバレッジ・インバース型ETF・ETN）](#)

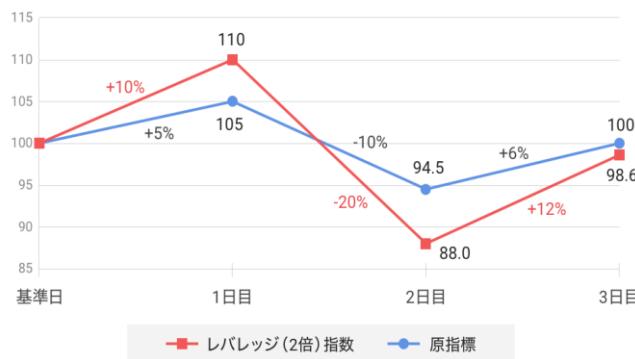
9. レバレッジ型指標とインバース型指標の特徴及び留意点

レバレッジ型の特徴

- レバレッジ型指標は、変動率が原指標の日々の変動率の2倍となるように算出されているため、前営業日と比較するとその変動率は原指標の2倍となります、2営業日以上離れた期間での比較においては、複利効果により、原指標の変動率の2倍以上または未満となる場合があります。
- レバレッジ型指標は、原指標が上昇トレンドにある場合において、収益をさらに強く求める指標であるため、原指標の上昇を見込む場合には有用ですが、原指標が上昇・下落を相互に繰り返す場合、上記の複利効果により原指標は遞減していくという特性があります。このような場合、投資者は利益を得にくくなります。

レバレッジ型の留意点

- 下図のように原指標が上昇・下落を繰り返す場合、レバレッジ(2倍)指数の日々の変動率は、原指標の日々の変動率の2倍を達成しています。しかしながら、原指標は上昇・下落を繰り返しながらも3日目に基準日と同じ水準（100→100）に戻っているのに対し、レバレッジ(2倍)指数は複利効果が働くため、100→98.6と基準日と同じ水準に回復していません。このように、相場の方向感が定まらず、原指標が上昇や下落を相互に繰り返した場合、レバレッジ型指標は複利効果によって、原指標と比較してパフォーマンスが遞減していくという特性がありますので留意が必要です。



インバース型の特徴

- インバース型指標は、変動率が原指標の日々の変動率の-1倍（または-2倍）となるように算出されているため、前営業日と比較するとその変動率は原指標の-1倍（または-2倍）となります、2営業日以上離れた期間での比較においては、複利効果により、原指標の変動率の-1倍（または-2倍）以上または未満となる場合があります。
- インバース型指標は、原指標が下落トレンドにある場合において上昇し、収益をさらに強く求める指標であるため、原指標の下落を見込む場合には有用ですが、原指標が上昇・下落を相互に繰り返す場合、上記の複利効果により原指標は递減していくという特性があります。このような場合、投資者は利益を得にくくなります。

インバース型の留意点

- 下図のように原指標が下落・上昇を繰り返す場合、ダブルインバース(-2倍)指数の日々の変動率は、原指標の日々の変動率の-2倍を達成しています。しかしながら、原指標は下落・上昇を繰り返しながらも3日目に基準日と同じ水準（100→100）に戻っているのに対し、ダブルインバース(-2倍)指数は複利効果が働くため、100→96.0と基準日と同じ水準に回復していません。このように、相場の方向感が定まらず、原指標が下落や上昇を相互に繰り返した場合、インバース型指標は複利効果によって、原指標と比較してパフォーマンスが递減していくという特性がありますので留意が必要です。

